

令和3年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p>・地域から愛され、生徒一人一人が輝く学校</p> <p>・生徒一人一人を大切にし、能力を最大限に伸ばし、将来展望を持たせ、進路を決めて卒業させる</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域との連携を深めた特色ある学校づくりを推進する 教育活動をととして、規律ある行動とコミュニケーション能力の向上を図り、自分を大切に、他者を思いやる心を育てる。また、安心安全で充実した教育環境を整備する。 生き生きとした学習活動を公開し、地域から信頼される学校づくりを押し進める。 自己理解を深めるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り開く能力や責任ある行動力を身につけさせる。 学習環境の整備や教職員の資質向上に努め、学校の評価を高め、信頼される学校づくりを押し進める。 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導・評価の充実と、相違工夫を活かした特色ある教育活動を展開する。 ICT教育の充実を図るとともに、ネットワークを活用した学習支援の充実を図る。 	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス対策の中、前年度の成果と課題を踏まえ教職員が一丸となって本校の教育活動を前進させることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校評価について <ol style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート結果では、生徒の満足度は約80%と高い。しかしながら、生徒自身の誇りに十分に繋がっていない。自己肯定感を高める教育活動の推進を行う必要がある。 Classiの導入により、保護者に対して学校の教育活動が見えやすくなったとの意見が多い。今後さらに教育活動の見える化を充実させる。また、環境整備へのご意見もあり、全校体制での美化活動を推進する。 中学生から選ばれる学校となるよう、積極的な広報活動を行う。 学習活動について <p>アンケート結果から、主体的に学ぶ意欲をさらに高めるべきであると考え、学習指導と評価のさらなる充実を図り、主体的に学ぶ力の育成に努める。</p> 進路指導について <p>平成30年度新設の「特進エリア」完成年度を終え、一定の成果が見受けられた。今後は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、ICT機器の活用も増やし、「個別最適な学び」と「個別最適な進路指導」を組織的に推進し、生徒のさらなる学力向上と進路実現を図る。</p> 地域連携等について <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、多くの取組の中止を余儀なくされたが、地域連携を一部でも進めることができた。次年度は、感染症対策を講じながら、地域における学びの場の保障と地域貢献活動をさらに推進する。</p> 命と人権を大切にしたい取組 <p>生徒の生命の尊重を第一に考え、迅速かつ丁寧な対応を行うとともに、いじめ防止に向け、いじめアンケートの実施のほか、木津高人権啓発標語の取組みを行った。次年度も、人権教育と安全教育的なさらなる充実を図る。</p> 基本的生活習慣の確立と部活動について <p>生徒指導部を中心に、身だしなみ指導を充実を図れている。基本的な生活習慣について、今後も粘り強く行う。また、生き生きと充実した高校生活を過ごせるよう、部活動等、特別活動のさらなる充実を図る。</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 創立120年、木津高校の歴史と伝統ある建学の精神を継承しつつ、2030年代を見据えて、3つの学科において、それぞれ主体的で対話的で深い学びの充実を図る。また、特色ある教育活動を推進する。 進路希望の実現と未来を切り開く力を育成するために、学習活動においては基礎・基本を大切に、地道な努力を積み重ねる大切さを伝え、確かな学力の定着を図る。また、ICT機器の活用を推進しながら、「主体的な学び」「個別最適な学び」の充実を図る。 規律ある学校生活と基本的な生活習慣の確立を図り、欠課・遅刻の減少に向けた指導を強化する。 粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等を限りなく0に近づける指導を徹底する。 人権の尊重と共生社会の実現に向けた取組のさらなる充実を図る。多様化を理解し、互いの人権を尊重しながら、信頼で結ばれ成長しあう人間関係を作る学級経営や学校づくりを行う。また、いじめや差別を許さない環境づくりを行う。 地域等と連携した教育活動やボランティア活動を積極的に行い、確かな学力の定着を図るとともに、自己有用感と誇りを育成する。 危機管理の徹底を図り、安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切に、健康で安全な生活をおくることができるよう健康安全教育の充実を努める。 部活動の加入率70%以上を目指し、部活動体験期間を設け、部活動のさらなる活性化を図る。 選ばれる学校づくりのために、広報活動をさらに充実させ、地域・中学生及びその保護者へ、木津高校の魅力を伝える取組を、早期に行う。

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	修学保障	原級留置・中途転退学者数を限りなくゼロに近づける。	校務システムにおける日々入力を導入して欠席過多生徒の情報共有を担任と教科担当間でより緊密にする。また、欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度人数より減少を目指す。 各学期の中間考査後、K-Alertを全教職員に配付することや、各学期末においても成績会議を開催することで、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。「授業を大切にしよう」を活用し、課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度導入した日々入力を安定的に運用することができ、生徒の欠席状況をより正確に把握することができるようになった。新型コロナウイルス感染症に伴う出席停止者の増加のため、届と日々入力の整合性が課題である。引き続き学年部と連携し、届をしっかりと提出させていきたい。 K-Alertを活用し、生徒の成績・各教科の欠席時数を知らせ、不振の改善を図った。生徒の異動状況も昨年度の同時期(2月)よりも若干改善している。
	学習指導	授業規律を確保するとともに、授業改善を推進して学力向上を図る。	Classiをより効果的に活用し、授業改善につながる取組(公開・研究授業週間、授業アンケート等)を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。 学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。	3		
	学校運営	学校運営上のマニュアル、手引き、各種届け様式等の見直しを図る。	マニュアル、手引き、各種届け書等を全教職員がより効率的に活用できるようにClassiを活用し周知、徹底をはかる。	3	3	
	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員に図書館の利用を促進する。 図書委員会の活動に生徒たちを積極的、主体的に取り組みさせる。Classiを活用するなど、有効な広報活動を行う。	3	3	
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。 登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。 携帯電話やスマートフォンのモラルを教え、使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、校門であいさつ運動と共に遅刻指導を行った。遅刻者減少に向けて今後も取り組んでいく。 マナーアップ強化月間を実施し、思いやりの力の向上を図った。 身だしなみ違反をする生徒が減少傾向にある。今後も身だしなみ強化週間を行うなど更なる減少に取り組んでいく。 人権学習を通じて他者を思いやる心の育成を行った。 木津駅前クリーン活動を行うなど奉仕活動や地域との連携を深めることができた。 仮入部期間を長めに設定し、新入生全員が部活動を体験できるように実施した。新入生の部活動加入率が86.5%と高かった。
		保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	保護者や外部関係機関と連携を密にし、生徒の安全に留意した指導を行う。 いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。	3		
	特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	生徒会、クラス委員、部活動の校外外での奉仕活動、人権学習等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。 部活動に参加しやすい環境をつくり、自主性・協調性の向上を図り、達成感を得られるよう指導する。	3	3	
キャリア教育推進	進路指導	希望進路実現のために就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導体制のさらなる充実及び強化を図り、希望者全員の内定を得る。 特別進学プログラム～守破離～を見直し、チームを中心に各学年及び各教科と連携しながら「主体的な学び」を促す取組を実践することで、生徒のさらなる学力の向上と進路実現を図る。 進路シラバスを基に系統的な進路学習を各学年と連携のもと実施し、適切な情報提供を行い、生徒の進路意識をさらに向上させ、希望進路	3	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での就職指導となり、補習日程の再調整や指導方法を変更することで対応するとともに、学年部と連携し就職指導体制の充実及び強化を図ることができた。また学校紹介での就職内定率100%を達成できた。 特別進学プログラム【守】では、週課題・学習時間調査・大学見学など進学や学習に対する意欲を高

進部			実現に向かう。			3	<p>めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別進学プログラム【破】では、市役所や警察と連携し探究活動を充実させた。ただ、LHRで探究活動を行っているため、進路情報を伝える場が減ることが課題である。 ・特別進学プログラム【離】では、自習室を利用させることで自立して学習に励ませることができた。 ・進路シラバスを基に年間を通して各学年と連携し、進路学習を実施することができた。
	中高連携 広報活動 PTA活動	本校の教育活動に興味・関心を持つ中学生に多く受験し入学してもらうために、中学校との連携をより強化する。本校の特色ある教育活動を、中学校、地域社会、企業、大学へ広報する。	中学校訪問や学校説明会、専門学科体験セミナーや普通科授業体験の実施により本校の魅力を伝え、中学校との信頼関係を構築し、特に木津川市、相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。各分掌、教科、学科、部活動と連携して、ホームページだけでなくSNSを積極的に活用したりリアルタイムな情報発信を行う。またPTAと連携し、会報などを利用し本校の教育活動を保護者に向けて適正に発信する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、8月、10月に中学校訪問を実施した。また、8月特色体験セミナー（127組参加）、10月部活動体験・学校説明会（130組参加）、11月特色体験フェスティバル（107組）、進路相談会（11月25組、12月54組）を実施し、参加者が体験や知りたい内容を選択できる形で実施できた。会場の人数制限や座席指定、体験内容の選択などにより、オペレーションの複雑化や全体時間が延びてしまうこと等の課題があった。 ・HPの更新39回（企画29回、進路10回）インスタグラム72回更新（2/18時点）し、積極的な情報発信ができた。 ・学校紹介動画を作成しHPで公開した。9月の学校説明会中止の際は、参加予定者への限定配信も実施し、12月進路相談会での参加者へも提供した。部活動紹介動画の作成にも取り組んだが、公開に至らず課題が残った。 ・PTAでは「きくふじ」の発行の他、学校紹介動画をPTA全国大会で流すなど、役員と連携して取り組んだ。
保健部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育む。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。清掃場所を明確にし、生徒と教員がより効率的で清掃しやすい環境を整える。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃範囲を点検し、事務部と連携し修繕した。 ・各種検診は感染症防止対策を徹底する中で一斉検診を行うことができ、ほぼ全員受検した。 ・スクールカウンセラーや学び生活アドバイザーとの連携で生徒のアセスメント表を作成し南山城相談支援センターの巡回相談など、支援や配慮に生かすことができた。 ・支援が必要な生徒の進路選択について学年・キャリア教育推進部と連携し支援できた。 ・勉強会や面談を通して要支援生徒に学力向上やスキルの向上に努めた。
		保健活動を通して、生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を行う。	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、各種検診を実施し、保健活動を充実させる。	3	3		
		支援を要する生徒が自己理解を深め、自ら主体的に進路を切り開く能力を育てる。	SCやSSWを交えて学校適応推進会議や特別支援校内会議開催し、個別の指導計画を作成し、必要な支援や配慮を行う。自分に合ったスタディスキルやソーシャルスキルを見つけることで自立と進路を選択する能力を身につけさせる。	3	3		
農場部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの認証継続を目指す。	農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。リスクを共有し対処できるようにする。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・G-GAP認証継続に向けた取組が実施できた。 ・木津川市、南山城支援学校、井手やまぶき支援学校・宇治支援学校との連携した教育活動を深めることができた。
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	情報企画科との連携内容を充実させる。大学・自治体をはじめ、他校種との学校連携を充実する。	3	3		

情報企画部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。時間・あいさつ・身だしなみの規律を定着させ、「主体的に授業に向かう」ことを重点項目として全学年に周知し、教員・生徒が共に徹底して取り組む。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も対外的な活動が限定的となり、インターシップと社会人講師授業の実施を見送った。しかし、地域の高齢者や小学生を対象としたパソコン教室、全商英語スピーチコンテストを再開できた。 ・授業規律の定着については、商業科欄に記載。 ・山城圏の中学校への出前授業「マナー講習会」は今年度も実施した。中2生に対しては中学校での職場体験の中止に伴って講習会も中止となる流れが続いているが、中3生への面接マナー講座が好評で、本科への関心と魅力を高められている手応えを感じる。 	
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	専門性を生かした進路実現のため、担任と連携して個別最適化した指導ができるよう協議する。	3				3
		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	情報企画科の取り組みをニュースやYouTubeなどで内外に発信し、地域住民や中学生に学科の魅力をアピールする。中学生へのマナー講習会の出前授業を行い、学科の取り組みや魅力を知ってもらう機会とする。	3				3
第一学年部	学校生活	基本的な生活習慣を確立し、目的ある性豊かな集団を育成する。	ルールを守らせる等の規範意識の確立を図る。授業規律を守り、授業を大切にすることで、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。身だしなみや挨拶、時間を守るなどの指導を徹底する。生徒、及び授業担当者や保護者との連携を深めて情報を共有し、迅速な問題解決を図る。	3 3 3 4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校と中学校（義務教育）との違いや、様々なルールについて、意味や理由等を理解させ、丁寧に伝えることを行い、一定の授業規律・規範意識の確立を図ったが、徹底することはできなかった。 ・入学当初は、部活動の加入率は約86.5%であり、積極的に活動していた。 ・保護者と連絡を密に取り、生徒の状況や様子を伝え、生徒の成長のために取り組んだ。 	
		部活動および学校行事に積極的に参加し、協調する姿勢を養う。	部活動参加を積極的に推進する。校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。	3 2				3
第二学年部	学校生活	基本的な生活習慣の徹底とともに、学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	規範意識の徹底を図る。授業を大切にできる環境づくりと考査前学習会等の実施で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができた。授業態度や学校生活について問題のある生徒もいたが生徒指導部と連携して粘り強く指導を行うことで一定の効果もあげることができた。 ・進路実現に向けて自ら行動する意識を持たせるために、キャリア教育推進部からの進路学習を踏まえ、担任によるHR指導、二者面談、三者面談を効果的に行うことができた。 ・今年度の行事も文化祭は中止となったが、スポーツ大会や研修旅行において、クラスの和を大切にしたい思い出に残る学校行事を実施することができた。 	
		進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。	進路実現のために、担任からの日常的な進路指導やキャリア教育推進部や保護者との連携を図り、定期的に面談を行い、自ら進路目標を切り開く力を育てる。	3				3
		思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。	身嗜みを整える、物を大切に、人を大切にするを心掛け、落ち着いた気持ちで学校生活を送れるようにする。研修旅行や文化祭など、充実した学校行事の実現に向け、集団の核となるリーダーを育てるとともに、人権学習や平和学習などをはじめとした事前・事後学習を計画的に行う。	3 3				3
第三学年部	学校生活	進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路実現にむけ、保護者との密接な連携のもと進路指導をすすめる。地域に愛される高校の一員として、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。学校行事や人権学習、清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にコミュニケーションの大切さを自覚させる。	3 3 4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者と連絡を密にとり、キャリア教育推進部と連することによって、生徒の進路実現をサポートした。 ・「身につけよう！素直力！！」や「私物持ち帰り忘れ書き指導」などの学年独自の取組を設定することによって、目標の達成に努めてきた。 ・学年別スポーツ大会や卒業式など、限られた学校行事しか実施できなかったが、その分一つ一つの学校行事を大切に、貴重な生徒の成長の場とすることができた。 	
事務部	施設設備管理	安全安心な学校作り	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・事務分担の変更もあり、それぞれの仕事内容を全員で共有することができた。 	
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務	職員相互のチェック・確認体制の定着を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者への事務室からのお知らせにClassi 	

	処理	事務部内でそれぞれの仕事内容を共有し、共通理解を図る。			3	を 活用 した。 ・空調機器の管理は、「いつまでも暑い夏」に苦慮した。また、冬季は 換気と暖房の両立が難しく、結果としてデマンドが上がった。予算を包括的に捉え執行する必要性を感じるとともに、機に応じて所管課と調整していかななくてはならない。
情報の見える化	生徒・保護者、職員への情報の見える化の推進	奨学金等の案内にclassi等を活用し、保護者等への情報発信の一助とする。	3	3		
省エネ・ゴミ削減と清掃	節電対策の推進	校内を巡回し、不必要な点灯箇所の電灯を消す等節電に努める。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえつつ、空調機器の適正な温度管理をおこなう。	2	2		
	廃棄物量の削減と清掃	・ゴミの分別・節減に努めるとともに、自らも積極的に清掃活動をおこなう。	3	3		
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	生徒の健康を第1に考え、保健部と連携しながら、必要な物品の調達を図る。また、新型コロナウイルス感染症対策を念頭に置き、生徒、保護者、来客等の窓口対応に当たる。	3	3		

学校関係者評価委員会による評価	<p>①学校評価アンケート結果によると、生徒の満足度も約80%と高く、学校の教育活動が生徒のニーズに合っている。</p> <p>②コロナ禍でのClassiの導入やホームページにより、保護者に対して学校の教育活動が見えやすいのは評価できる。</p> <p>③学校評価アンケートで、環境整備についての指摘があり、全校あげての大掃除の実施などを計画すべきである。</p>
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<p>①学校経営方針（中期経営目標）の達成に近づくため、個々の教職員が自分の果たすべき役割を自覚し、分掌部長を中心とした組織体制をより強化するとともに、分掌相互の連携を一層深めながら全ての教職員が共通認識のもとで学校運営に参画する体制を目指す。</p> <p>②次年度からの新学習指導要領実施を踏まえ、生徒が意欲的、主体的に学習に取り組むような評価方法や、1人1台タブレット端末を効果的に活用し授業の質の向上を目指した授業改善を積極的に行う。</p> <p>③保護者や地域等との連携を強化し、保護者や学校関係者と教職員が協力して生徒の教育の向上を目指すことにより、地域から愛される学校を目指す。</p>
---------------	---